

2012年7月時点の広告です。

明治大学が考える、世界を舞台にした大学教育・研究の未来 2

多様な価値観に触れ、 世界へと視野を広げる



国際社会のメンバーとして多元的な 視点を認め、提言できる人材育成を

従来の国家形成過程論では説明がむずかしい東日本の古墳の特色
専門は弥生～古墳時代の国家形成過程論で、主に茨城県と長野県の古墳を調査しながら、周縁地域の国家形成過程を明らかにしようとしています。



文学部教授 佐々木 憲一
専門分野: 考古学
研究テーマ: 古墳時代論、国家形成論、地域間交流論

古墳時代(3世紀半ば～7世紀前半)は、日本に国家や階級社会が形成されつつあった時期で、北海道・沖縄を除く各地に分布する古墳はヤマト王権との直接・間接的な交流が全国におよんでいた所産といえます。しかし、調査してみると、地域によって大きな差異があること

を認め、地域色豊かな古墳時代社会をも説明できる国家形成過程論を構築していきたいと考えています。
研究成果を英語で発信することで、世界に新たな刺激を与えたい
この古墳時代の国家形成過程論は、日本の研究者の間でも学説が異なります。その上、メソポタミアやギリシャ・ローマ、インカなど強力な中央集権体制を前提とする西洋流の国家形成過程論では説明できないものです。私は研究成果を英語で世界に発信することにも注力しており、いずれ西洋文明を前提にした国家形成過程論に刺激を与えることができると考えています。

近年、考古学研究においてもグローバル化の潮流が見られます。明治大学では、学派や国の壁を越えた学術交流に取り組んでおり、国内においては大阪大学、海外においては南カリフォルニア大学との学術交流を積極的に進めています。今後も米国や英国の大学との学術交流を促進していきます。
グローバル化する国際社会のメンバーであるための最も重要な要件は、多元的な視点を認め、違いを前提に議論を交わすことです。そこから次代の社会に貢献するような新しいモデル、あるいは課題解決に向けた、多様かつ柔軟性のある提言を生み出せる人材の育成を図っていききたいと思ひます。

文学部データ (2012年4月1日現在)
文学部/史学地理学科/心理社会学科
○キャンパス: 1・2年次/和泉、3・4年次/駿河台
○専任教員数: 112名
○大学院: 文学研究科(日本文学専攻・英文学専攻・仏文学専攻・独文学専攻・演劇学専攻・文芸メディア専攻・史学専攻・地理学専攻・臨床人間学専攻)

諸外国の視点を通し、日本人的 コミュニケーションを解き明かす

日系企業におけるコミュニケーション調査で問題を顕在化
異文化間コミュニケーション学は、文化的背景が異なる人同士がコミュニケーションを行う際に起こりうるさまざまな現象を抽出し、そのメカニズムや原因、解決法などを研究する分野です。
私の主な研究の一つに、中国、米国、東南アジア諸国に進出する日系企業に従事する現地従業員と日本人スタッフとのコミュニケーションを調査・分析する共同研究があります。そのなかでも興味深いのは、各国特有の現象がある一方、多くの国で共通して、日本人のコミュニケーションについて現地従業員から同様の声が多数あがるという点です。

例えば、「一を聞いて十を知る」という諺があるように、日本では上司の指示が具体的になくても、その意味を斟酌して成果を出す従業員が有能と見なされる傾向にあります。しかし、このような「察し」の習慣が一般的でない文化では、日本人上司の指示は曖昧だという指摘が生じます。一方、仕事で問題が起こったとき、現地従業員たちが弁解したり、責任の所在を明らかにしようとするのに対し、問題の原因究明や改善に真摯に取り組む日本人の姿勢は多くの国で高く評価されています。

多様な文化を認め、
尊重できる心を養う教育を

このように日本人の異文化接触時のコミュニケーションプロセスを解明していくのが私の研究ですが、グローバル化・高度情報化に伴い、異文化間のコミュニケーションはますます重要に

なると考えます。
情報コミュニケーション学部は、情報社会における人々のコミュニケーションに関する諸問題を領域横断的に扱う学際的知識と高度な教養を身につけることに力を注いでいます。なかでも私は「自文化」、つまり「自分自身の文化」についての理解を深め、メディアの特性を考慮しつつ独自の表現で自分の考えや想いを広く発信できる力を養ってほしいと思っています。
グローバル化や高度情報化が進み、日本国内においても文化的背景の異なる人々と共生する時代。今後はさらに多様な文化を認め、尊重できる心を養うコミュニケーション教育をさらに推進していきたいと考えています。



情報コミュニケーション学部准教授 根橋 玲子
専門分野: 異文化間コミュニケーション学
研究テーマ: 日本人のコミュニケーションと多文化共生

情報コミュニケーション学部データ (2012年4月1日現在)
情報コミュニケーション学科
○キャンパス: 1・2年次/和泉、3・4年次/駿河台
○専任教員数: 42名
○大学院: 情報コミュニケーション研究科

豊かな知識と発信力を兼ね備えた 真の「国際人」の育成を目指す

信頼で結びつく「人と人」の交流が
良好な国際関係、国際交流を構築
各国の文化や経済が相互に影響し合うグローバル社会において、良好な国際関係を構築するための国際交流はますます重要性を増しています。
ひと口に国際交流といっても、そこには3つのレベルがあります。1つはGG(Government to Government)、つまり条約や協定によって結ばれる政府間の交流。2つ目は企業同士が利害関係でつながるBB(Business to Business)の交流、3つ目は人と人との友情と尊敬でつながるPP(People to People)の交流です。そして、良好な国際関係を築くためには、利害関係ではなく信頼で結びつたPP、「人と人」の交流が最も重要なのです。

では、グローバル社会において強固なPPを構築できるのは、どんな人でしょう。私は、自分が生まれた国の多彩な魅力を熟知し、誇りを持って自国の価値を語れる人だと考えています。それが豊かな知識と発信力を兼ね備えた真の「国際人」といえるでしょう。
大学は学生たちにRootsとWingsを身につけさせる場
本学ではグローバル化に対応するため、世界190の大学と協定を結び、留学制度を整備。なかには、ウォルト・ディズニー・ワールドでインターンとして働きながら講義などを受け、経営や国際的なホスピタリティを体得するというユニークなプログラムもあります。

私が学部長を務める国際日本学部は、そうした真の「国際人」を養成する



国際日本学部教授/学部長 蟹瀬 誠一
専門分野: マス・コミュニケーション、国際関係
研究テーマ: メディアと情報操作

ために誕生しました。そのため、世界的視点で魅力ある日本の文化や社会システム、国際理解を追究するカリキュラムと語学教育に力を入れています。例えば英語については、研究やビジネスで即戦力として使える英語力を到達目標に掲げています。
2013年度から国際日本学部は、総合数理学部(設置認可申請中)などと共に、新たに開校する中野キャンパスに移転します。世界各国から留学生・研究者が集うキャンパスで、日本に対する知識やコミュニケーション力を高め、国際社会へはばたく力、つまりRoots(根っこ)とWings(翼)をしっかりと身につけ、グローバル社会で活躍できる人材を育成します。

国際日本学部データ (2012年4月1日現在)
国際日本学科
○キャンパス: 和泉(2013年4月より中野)
○専任教員数: 48名
○大学院: 国際日本学研究科

世界のトップユニバーシティを目指して②
質の高い国際交流を実現

世界とつながり、 知を開く。

明治大学では、世界各国の大学と連携し、海外拠点や海外協定校の拡充、留学生受入れの増大など、さまざまな取り組みを推進して教育・研究の高度化、国際化を図っています。
さらに、東京都中野区に来春開設する中野キャンパスを「国際化・先端研究・社会連携」の拠点として位置づけ、国際日本学部と総合数理学部※、複数の大学院研究科、および研究機関を展開。時代をリードする世界のトップユニバーシティを目指します。



2013年4月、
中野キャンパス
OPEN



中野キャンパスデータ
【学部】国際日本学部、総合数理学部※[各学部1～4年次]
【大学院】国際日本学研究科、先端理科学研究所、理工学研究科新領域創造専攻、理工学研究科建築学専攻国際プロフェッショナルコース※
【研究機関】先端理科学インスティテュート(MIMS)
※総合数理学部、理工学研究科建築学専攻国際プロフェッショナルコースは2013年4月開設予定。(2012年7月現在、設置認可申請中であり、名称その他計画に変更が生じることがあります。)

オープンキャンパス
各日程 10:00～15:30 入退場自由

駿河台キャンパス
8/2(木)・3(金)
8/23(木)・24(金)
文系全学部・農学部食料環境政策学科・総合数理学部(2013年4月開設予定)

生田キャンパス
8/8(水) 8/18(土)
理工・農・総合数理学部(2013年4月開設予定)

和泉キャンパス
9/15(土)
文系全学部・農学部食料環境政策学科